

薬草だより

橋本竹二郎の植物画紹介

その7

樋口 剛央*

サイカチ (マメ科)

Gleditsia japonica (Leguminosae)**生薬名:**〈成熟果実〉皂莢(ソウキョウ), 〈種子〉皂角子(ソウカクシ), 〈棘〉皂角刺(ソウカクシ)

花期は5~6月。雌花、雄花、両性花を同株につける。果実や種子、棘を薬用部位とする。山野に自生する樹高15mほどの落葉高木で、幹や枝に鋭い棘が多数ある。日本特有の植物であり、中国では同属のトウサイカチ(*G. sinensis*)を基原とする。皂莢、皂角刺は鎮咳去痰、利尿薬とする他、皂角子や皂角刺は腫れ物に、皂角刺は民間薬でリウマチに効くとされる。



シヤクヤク (ボタン科)

Paeonia lactiflora (Paeoniaceae)**生薬名:**芍薬(シヤクヤク)

花期は4~5月。花が美しく、古くより中国や日本で栽培され、多くの品種がある。根を薬用部位とする。中枢抑制、鎮痙、鎮痛、抗炎症、抗アレルギー、血管拡張、平滑筋弛緩、ホルモン調節作用などがあり、鎮痛鎮痙薬、婦人薬、冷え症用薬、かぜ薬、皮膚疾患用薬、消炎排膿薬など数多くの処方に配合され、芍薬甘草湯、桂枝湯、桂枝加芍薬湯、桂枝茯苓丸、柴胡桂枝湯、柴芍六君子湯、小建中湯、当帰芍薬散等、一般用294処方中1/3以上の102処方に含まれている。また、胃腸薬、瀉下薬にも配合される。



ショウガ (シソ科)

Zingiber officinale (Zingiberaceae)**生薬名:**生姜(ショウキョウ), 乾姜(カンキョウ)

日本では花はほとんど咲かないが、東南アジア周辺の暖地では8~9月に開花する。根茎を薬用部位とし、局方では、生姜は直接乾燥したもの、乾姜は湯通しや蒸して乾燥したものとして区別している。また、中国では新鮮なものを生姜、乾燥したものを乾姜(干姜)とする。鎮吐、鎮静、鎮痛、鎮痙、抗潰瘍、腸管内輸送促進、強心、鎮咳、保温作用などが報告されており、主にかぜ薬、健胃消化薬、鎮吐薬、鎮痛薬など、一般用294処方の約4割と高頻度に配合され、胃腸薬の原料にも用いられる。通常、薬味などとして食用にもされる。



橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

来歴

1931年東京に生まれる。

牧野富太郎氏らと親交。津村研究所(現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

主な著書

「立山路の花しるべ」(共著、巧玄出版, 1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著、巧玄出版, 1979)、「目で見える薬草百科-見分け方・採取時期・薬効と使い方」(永岡書店, 1984)、「薬草・花を描く-ハーブドローイング植物画を楽しもう」(日貿出版社, 1994) ほか